

# 南総里海発見伝キッズ・プロジェクト 海洋冒険家・白石康次郎さんと学ぶ セーリングキャンプ フォト・レポート



南総里海発見伝キッズ・プロジェクト実行委員会  
(事務局：NPO法人 教育支援協会 千葉支部)

# 10月6日(土)活動レポート



特別講師のお二方。左が白石康次郎さん、右が舵社の編集局長・タクボーおじさんこと田久保雅己様。お二人とも、日本のヨット界の第一人者です。



子供達をサポートしてくれたボランティア・リーダーさん。赤いバンダナが目印です。「このバンダナをしている人以外には、ついていってはダメだよ」と、子供達に伝えてます。



大房岬少年自然の家での過ごし方を説明してくれた神保先生。「ここはホテルや旅館じゃないから、自分のことは自分でちゃんとやらなきゃいけないぞ」とやさしくも厳しく教えてくれました。



その神保先生に案内されて、大房岬の自然を散策しました。明日でかける館山湾が一望できる展望台に登ってみました。明日が楽しみになってくる風景に、子供達はワクワクする気持ちを隠せません。



初めて出会うお友達ばかりです。芝生の公園で、仲間と仲良くなるゲームで盛り上がります。もちろん白石さんもノリノリです。



海上保安庁千葉海上保安部の職員の方による「安全講習」。  
「海上にでるときは、必ずライフジャケットを着用しまし  
う。これがキミ達の命を助けます。」しかし、実際には子供  
達は「どうやって着るの?」と、四苦八苦。何回も練習し  
ました。



船の活動には欠かせないロープワークです。みんな、頭が混  
乱してなかなかうまく結べません。頭で考えないで、手で  
覚えようといっても、なかなかそうはいきません。苦勞して  
やっと結べたときは、みんなものすごく嬉しそうでした。



いよいよ、白石さんの講座です。実物のヨット（ディンギー）にみんな興味津々。これがどうやって風だけで走るのか、不思議で仕方ありません。「風を受けると。ヨットはこうやって傾くんだよ」と、みんなで共同作業。「こんなに傾いたら海に落ちちゃうんじゃないの?」「ジェットコースターみたい」と、翌日の海上活動に夢を膨らませていました。



今度は、白石さんが世界一周レースをしたヨットの実物模型を見てみます。「このマストは、実際にはこの体育館よりずっとずっと高いんだぞ。壊れたときは、てっぺんまで一人で登って直したんだよ。」の説明に、全員が「ええ〜怖い!」と驚きの声をだしました。



今度は船で使うためのヨットのシート（ロープのこと）それぞれが切り、解けないよう端末を処理してみました。火の熱で固めてビニールテープで固定する作業でしたが、ここで大人全員が驚愕の事実をしりました。なんと、蝶々結びができない子、ライターの使い方を知らない子がたくさんいたことです。危ないからと家では触らせていないのでしょうか。



タクボーおじさんも加わり、自分で端末処理をしたシートで再度ロープワークにチャレンジ！  
先ほど海上保安庁のお兄さんたちに教わったのに、やっぱり忘れてしまってます。タクボーおじさんが用意してくれたテキストを見たりして、四苦八苦。「どうして、ぱっぱと結べるの？」と口を尖らせる子どももいました。

# 10月7日(日)活動レポート



キャンプ2日目は、朝6時起床です。しかし、もっと早くから起きていた子もいたそうで……。全員が朝食前には、お世話になったお部屋のお掃除を済ませました。朝から体を動かしたので朝食の時間前には、「早く食べたい!」と暴動が起きそうなほど、お腹はペコペコだった様子。全員おいしく食べて、海上体験に臨みました。



2日目は、子供達の日頃の行いが良いのか、まさにセーリング日和に恵まれました。白石さんは巡視艇に乗り、海上を巡回し子供達に声をかけてくれました。撮影部隊が乗り込み、クルーザー班・アクセスディンギー班に、エールを送ってました。



パウ（ヨットの前の部分を言います）に座って、ちょっと映画のタイタニックの一場面を味わっている子もいます。（しかし、今の小学生ではタイタニックは知らないかもしれませんね・・・）実際に舵を握って操船したり、帆をあげるを手伝ったり、シートを引っ張ったり、クルーの一員としてちょっとお手伝い。自分で船を動かしていると実感！



このヨットに乗った子供達はものすごくラッキーです。なんと！「2頭のイルカに遭遇！」しばらく、ヨットに合わせて一緒に泳いでくれたそうです。海は思いもつかないサプライズを時々与えてくれますね。



海水に足を入れてみました。  
水がとってもきれいだったし、  
気持ちよかったですよ～



館山湾には帆船の日本丸が停泊しており、セーリング体験に花をそえくれました。子供たちが近くまで来ると、日本丸の皆さんが手をふってくれました。帆船はやっぱり気品に溢れています。子供たちもうっとりとした目でみていました。館山湾は、こうした帆船が時々停泊する海でもあるのです。



なにやら作戦会議？

海の風は気持ちいい～



さすが白石さん！キマってます。



さて、こちらはアクセスディンギー。沖ではベタベタわがまを言いながら甘えてた子も、あまりの海面の近さに緊張し、「自分の身を守るためには、大人の言うことを聞かなくちゃ」と表情が一変します。ヨットは自然と大人の話を聞く耳を育てる環境を子どもに与えてくれます。



こちらもアクセスディンギー。先生に進む方向を教えてください、舵を切ります。思うように進まないのが悩みの種。ヨットは頭を使います。



帰ってきたよー！

お~い！



この日は、NHKの取材も入りました。セーリングの様子は、その日の夜のNHKのニュースで紹介されました。



お昼は、午後の活動となる沖ノ島の海岸で食べました。  
この島は周囲1キロちよつとの無人島ですが、潮流の関係で陸地とつながっています。島内にあるトイレは、エコを意識しバクテリアが分解し自然に還すという、環境に配慮した画期的なもの。島全体が環境保護で守られています。



午後は無人島の沖ノ島探検です。うみがめ先生から、島に流れてきたいろいろな動物の骨を説明してもらいます。先生が持っているのは本物のウミガメの骨です。他にも鯨の背骨の化石などたくさん見せてもらいました。でも、悲しいかな、ハングル語で書かれた空き缶も・・・遠い国で捨てられたゴミが、館山まで流れてきているんですね。



沖ノ島の海岸は、地震で隆起し大昔の地層が、むき出しになつてるところがたくさんあります。なんと、ここには古代の貝殻の化石が地層の中に隠れているそうです。ここでは化石探しに挑戦してみました。他にも沖ノ島は、縄文時代の土器がたくさん出てきます。島全体が遺跡に指定されているので、土器を勝手にもって帰ってはダメだとか。



今度は島の一番奥の海岸で、「寶貝」さがしです。大昔、寶貝はお金として使われていたそうです。「貝へん」の漢字の「貝」は、この寶貝が元になっているそうです。今はお金として使うことはできないけれど、みんな寶貝をさがしてお金持ちになろうと必死です。先生に聞きながら、寶貝だとわかるとニコニコして袋に入れてました。



セーリングキャンプもいよいよ終わりとなりました。  
2日間、子供達と一緒に行動を共にした白石さんが、  
「自然の中で自分達は生かされていること。その自然をもつ  
と大事にしなければならぬこと。そして、ヨットは頭で考  
えないで、とにかく楽しむこと。」をお話してくれました。  
2日間有難うございました！



タクボーおじさんも、子供達に言葉をかけてくれました。  
ふだんは大人のヨットマンたちを相手に、全国を駆け回っ  
ているタクボーおじさんも、このキャンプでは「子供達の様子  
に、徐々に心が洗われました。また会いましょう」と。  
雑誌の「KANZI」で、このキャンプの様子をもしかしたら  
記事として載せてくれるかもしれませんね。



全員で記念撮影です。  
「仁義礼智忠信孝悌」のグループで動いた八犬士たちです。  
白石さんのお話で、自分の夢の入り口を見つけた子どももいました。それぞれが、素晴らしい思い出を胸に、お家に帰っていきました。また来年会いましょう。

**キャンプにご協力いただいたみなさん！  
素晴らしい時間を提供してください  
本当にありがとうございました！  
また来年もやりますので、  
宜しくお願ひします！**

南総里海発見伝キッズ・プロジェクト 実行委員会

委員長 : NPO法人教育支援協会 代表理事 吉田 博彦  
委員 : NPO法人千葉自然学校 ディレクター 神保 清司  
NPO法人館山外洋ヨットクラブ 会長 山口 弘之  
NPO法人たてやま・海辺のまちづくり塾 理事 本多 勝宏  
( 同 ) 平嶋 守道  
NPO法人たてやま・海辺の鑑定団 理事長 竹内 聖一  
館山市教育委員会 石井 博臣  
館山市経済観光部商工観光課 上野 学  
館山市経済観光部みなとまちづくり課 和田 修  
館山市経済観光部体験交流センター 山口 孝  
( 同 ) 植木 喜晃  
NPO法人教育支援協会千葉支部 支部長 原 恵美子 ( 事務局 )

現地運営本部メンバー

プロデューサー : 原 恵美子 (教育支援協会千葉支部)  
サブプロデューサー : 新倉 正幸 (教育支援協会本部)  
プログラムディレクター : 原 静夫 (館山外洋ヨットクラブ)  
マネジメントディレクター : 斉藤 正之 (館山外洋ヨットクラブ)  
アシスタントマネジメントディレクター : 大川 紀代子 (教育支援協会千葉支部)  
キャンプアドバイザー : 神保 清司 (千葉自然学校)  
グループリーダー : 安齋久雄 広瀬秀一 庄崎賀絵 羽山泰夫 高橋智美  
蛭田康介 斉藤航太 長谷川恭子  
サポートスタッフ : 市川靖 石川勇喜 比護正仁 (教育支援協会神奈川支部)  
斉藤明美 高橋純佳 (教育支援協会千葉支部)  
石井 博臣 (館山市教育委員会)  
和田 修 (館山市経済観光課みなとまちづくり課)  
上野 学 (館山市経済観光部商工観光課)  
トークショーボランティア : 羽山敏雄 岸田和義 川上典彦 (館山外洋ヨットクラブ)  
特別講師 : 白石 康次郎 (海洋冒険家) / 田久保 雅己 (舵社常務取締役・編集局長)  
来賓 : 石井 達郎 (館山市教育委員会教育長)  
協力 : 海上保安庁千葉海上保安部 / 海上自衛隊館山航空基地隊 / 安房消防局  
千葉 達夫 (株スポーツビズ)  
加藤 洋子 (株舵社)  
金敷 匡史 (NHK千葉放送局)  
館山外洋ヨットクラブのみなさま  
竹内 聖一 (たてやま・海辺の鑑定団) 他メンバーのみなさま  
平嶋 守道・本多勝宏 (たてやま・海辺のまちづくり塾) 他メンバーのみなさま